

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2016年1月号(第13号)



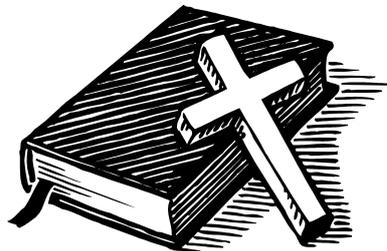
牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。【ヨハネの福音書 1章 4節】

新しい一年が始まりましたが、去る 2015 年はどのような年でしたか。私にとって 2015 年は嬉しいこともありました、悲しいこともありました。それは、父の死です。多くの方々から慰めと励ましを頂き感謝しています。父が 8 月 31 日に召天してから 4 か月はあるという間に過ぎていきました。私は、最近耳にしたある方の言葉が印象に残っています。その方は半年ほど前にお姉さまを天に送られたのですが、その今の思いを正直にお話し下さいました。それは、「天国で会えると分かっているのに淋しい」という言葉です。その言葉を聞いた時、まったく同感でした。分かっているのに淋しいものは淋しいのです。もうしばらくはこの

思いが続くのだらうと思います。

このサクサク通信では、父の死をきっかけに「死」について聖書から考えました。今号で終わるか、次号も続けるか検討中ですが、今回は「いのち」について考えます。

「死」について考える時に、「いのち」についても考える必要があります。私は、自分がいつ死ぬのか分かりません。また、分からないだけでなく、自分で死ぬ日を決めることも出来ません。それは、「いのち」を握っているのは私ではないからです。「いのち」は自分のものだと考えやすいですし、多くの人はそのように考えているかもしれません。しかし聖書は、今月の聖書のことばにあるように「この方にいのちがあった。」と

言います。「この方」とはイエス・キリストです。聖書は、イエス・キリストにいのちがあった、と言います。「いのち」の主権は「私」ではなく、「神であるイエス・キリスト」にあるのだと聖書は記します。身体が元気なうちは、「いのち」や「死」ということを余り考えないかもしれません。事実、私もそうでした。しかし、父の死を通して誰もが間違いなく直面することになる「死」の問題、「いのち」の問題について考えるようになりました。ある人は、死んだら全てがなくなるのだから考えるだけ無駄、と言われるかもしれません。しかし、そうおっしゃらずに一度自分はどこへ行くのか、ということをお考えください。また、自分の「いのち」について考える時、一度で良いので、聖書の視点に立って考えてみてください。「いのち」の主権は、イエス・キリストにある。この視点で自分のいのちを見つめる時、私は言葉で表現しにくいのですが、言いようのない安心感が得られます。それは、愛と

憐れみに富んでおられるイエス・キリストが「いのち」の主権を持っておられるからです。私にとって最善しかなさらない御方が、自分のいのちを見守って下さる。新しい2016年、一度キリスト教会に足をお運び頂き、イエス・キリストがどんな御方なのか、聖書の言葉に耳を傾けてみませんか。教会では皆様のお越しを心よりお待ちしております。

◆コラム

父と私が毎年楽しみにしていたことがあります。それは、箱根駅伝のテレビ観戦です。ただ、佐倉に来てからは別々に見ていました。「見ていました」と書きましたが、実は、我が家にはテレビがありません。テレビを置かない理由は、私が、テレビが大好きで見過ぎてしまうからです。しかし、唯一テレビが欲しいと思う時期があります。それが、箱根駅伝の時です。と言いましても、正月など関係ないのが牧師の仕事です。では、どのようにして箱根駅伝を見るのか。それは、日本テレビがインターネット上にアップするダイジェスト動画によります。その日ばかりは、ヤフーニュースをいっさい開かず、弟に結果を伝えてこないようにメールし、妻にも協力してもらい、動画を見ます。結果を知っている妻は言いたそうな顔をしているのですが、それを言ったら新年早々から大変なことになります。昨年は青山学院が優勝しましたが、今年はどうなるか。通信がお手元に届く頃には結果が分かっていますね。箱根の始まりは一年の始まりを感じます。今年はどうな名場面が見られるのか楽しみです。

～集会案内～

○日曜日：聖日礼拝 10:30～12:00
教会学校 9:00～10:00

○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
19:30～21:00

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。